

千秀だより

横浜市立千秀小学校

6月号

平成28年(2016)6月1日



運動会ご支援ありがとうございました。

校長 市川幸男

5月28日(土)、前日からの雨に洗われた鮮やかな緑に囲まれた校庭に、運動会の大きな歓声が響き渡りました。連休明けから取り組んできた演技・競技、そのすべてに渡って最高のものを出そうと、子ども達は一生懸命取り組みました。その結果として黄色308点、青304点・赤306点という、まれに見る接戦で、最後の種目まで各チーム一体となって応援の声をからすという、素晴らしい運動会となりました。保護者や地域の皆様には、たくさんの励ましや応援、また演技への参加や終了後の片付けへの協力もたくさんいただき、本当にありがとうございました。おかげ様で運動会終了後、どの子どもも晴れ晴れとした表情で下校することができました。心より御礼申し上げます。

そんな運動会の中、印象に残る光景がありました。それは、高学年の騎馬戦でのことです。一対一で向かい合い、真正面から戦いを進めていく中、明らかに体格のちがう二つの騎馬の対戦となりました。「はじめ」の合図で騎馬が近寄ります。すると、見た目にも非力と感じる騎馬が、突然自分の帽子を両手で押さえ防御姿勢を取りました。そして、帽子を取ろうと襲いかかる相手の攻撃の間隙を縫って手を伸ばし、相手の帽子を一瞬の間に取りするという反撃で、みごとに勝ちを収めることができました。



(画像は話とは関係ありません)

とかく「正々堂々」という言葉からは、何の守りもせず真正面からぶつかっていくことを想像しがちですが、私はこの児童の姿に感心しました。自分勝手な解釈ですが、自分が相手よりも弱いことを素直に認め、その中で何とか工夫して自分の勝ちを工夫していく姿も正々堂々といつて良いのではないのでしょうか。もちろん真正面からぶつかっていった数多くの騎馬達の姿も、同様に立派だったと思います。でも、多くの観衆に囲まれた中、自分の非力を認めることは容易なことではありません。あえてそれを認め、自分のチームの勝利のために工夫した姿も同様に評価していきたいと思います。

さて、季節は6月となります。新年度が始まって二月が過ぎ、クラスの学習の進め方や取り組み、友人関係も固まり、自分の居場所が定まりつつある時期でもあります。そんな時だからこそ、もう一度、お子様と学校生活について話し合う機会をもってみてはいかがでしょうか。元気に学校に行っているからと考えず、子どもにだって生活の中ストレスを感じることがあります。子どもによっては一人で悩み、誰かからの声を待っているというようなこともあります。もちろん、学級でも担任や専任を中心に子ども達の様子をきめ細やかに見て参りますが、子ども達の心の許せる場所はなんといってもご家庭に勝るところはございません。保護者の皆様から見た子ども、学校での子どもの姿、担任と家庭が情報交換を密にすることで、真に子ども達の思いに沿った教育活動が実現するのではと思います。よろしく願い致します。